

第 4 5 回 定 期 総 会 宣 言

私たち紙加労協は、本日ここに第45回定期総会を開催し、全国から集った代議員の熱心な審議を経て、2018年度の運動方針を決定した。

協議会結成50年という大きな節目に向けてすすんでいる今、結成時からの「自由にして民主的な労働運動」を旗印に将来を見据え、メインスローガン「働く仲間と力を合わせ、誇れる紙加工産業と明るい未来を、我らの手で築き上げよう！」を採択し、このスローガンの下、「流した汗が報われる産業」の実現を目指し、時代に即応した活動の展開を継続していく。

産業政策活動として続けている「TEIGEN」の発刊も昨年度で36回目となり、「自分に与えられた役割と責任を果たす」とともに「将来にわたり、この産業で働く一人ひとりが夢を持ち続け、働き続けられる産業」であり続けることを目指し、諸活動に取り組んでいくべきことを提言してきた。そしてこの「TEIGEN」を、「産業台労使の連携」がより一層高まるように、産業政策実践活動に活かしていく。

紙加工産業の過半を占める段ボール産業は、前年に引き続き2017年も生産量は過去最高が見込まれるが、主材料の段ボール原紙価格の値上げも打ち出されており、各社損益的には未だ厳しい状況にある。紙器・角底紙袋・クラブト紙袋・紙コップなどの紙加工産業も、状況的には同じであると認識している。

そうしたなか、「魅力ある企業・産業」となるためには、将来に向けた優秀な人材確保のための労働諸条件の整備が不可欠となる。私たちが経営側に望むことは、現在産業をあげて取り組み中のTFP（全要素生産性）向上による長時間労働削減を含んだ労働諸条件の向上を確実に成し遂げ、適切な舵取りによる「産業基盤のより一層の向上」を実現することである。われわれ働く者もこれに最大限に協力することにより、「魅力ある企業・産業」を労使で築き上げていく。

一方、安全衛生に関して紙加工産業は、労働災害発生件数は200件を割り込むようにはなってきたが、死亡災害も発生するなど、「災害の撲滅」には至っていない。これまでは、「自分の身体は自分で守る」と「設備の本質安全化」を両輪に取り組んできているが、さらに一步踏み込み、「リスクアセスメント」の視点でも、さらに取り組んでいく必要がある。そして、「職場の安全」は永遠の課題であり、「安全の真の責任」を自覚し、「安全第一」を基本に取り組んでいくことを労使で再度確認し、実践していかなければならない。

私たち紙加労協は、本総会で決議した運動方針をもとに、紙加工産業で働く仲間たちの社会的・経済的地位の向上を実現し、また、魅力ある企業・産業づくりのため、多くの仲間が参加できる充実した活動と創造型の民主的労働運動を追求し、紙加工産業の抱える諸課題に対して毅然として取り組み克服することを誓い合い、総会宣言とする。

2017年9月9日

日本紙加工産業労働組合協議会 第45回定期総会